

新たな価値を生み出し、 活力ある持続可能なまちへ

平成28年度は、地方創生総合戦略と総合計画後期基本計画の始動年です。町がこれまで進めてきた持続可能なまちづくりを一層進めていくとともに、子どもや若者が進んで挑戦できる環境を整え、誰もが安心して生き生きと暮らせる紫波町を目指します。

「選ばれるまち」を目指し、
持てる資源を生かしたまち
づくりを進めます

町は昨年、「紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。公民連携、政策間連携、地域連携で取り組む8つの連携プロジェクトを中心に人口減少問題の克服と稼ぐ力の確保に取り組んでまいります。

また、平成28年度から5カ年間で取り組むまちづくりの施策の方針として「第二次紫波町総合計画後期基本計画」も取りまとめ

ました。加えて、本町を含む盛岡広域圏8市町による協議を経て、盛岡市によって、圏域の発展を目指す8市町村が連携して取り組む事業を定めた「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」が取りまとめられました。

平成28年度は、これらの計画などに基づく公民連携によるまちづくりを基調として、さまざまな資源を生かし、新しい価値を創造することで、多くの方々に選ばれ、満足度の高い、活力ある持続可能なまちづくりを進めてまいります。

子どもたちの成長を
地域で喜びあえる
環境づくりをします

今年1月に行った「わかもの座談会」(『紫波ネット』2月号掲載)の中で、参加者の皆さんはそれぞれが自分の将来の夢と、町への思いを語ってくれました。若い世代の夢を形にしていけることは、町の未来につながります。また、国にとっても町にとっても、最大の財産は「人」そのものです。子どもたちの健全育成は我々の使命であると捉え、オガール地区への民設

民営の保育所の新設や、妊娠期から義務教育までの切れ目のない子育て支援体制の構築など、子どもたちの成長を喜びあえる環境を地域と共につくってまいります。

地方創生の基本は、他者を追従するのではなく、町が持てる資源を掘り起こし発展させることです。町には豊かな「食」と誇るべき「歴史・文化」があります。「誇れる食と文化・スポーツの町」をキーワードに、総合計画の施策や地方創生総合戦略を展開してまいります。



「オール紫波」のおもてなしで、国体を成功させましょう

今年は一巡目の国体です。町は自転車競技の開催地となっており、10月には国内トップクラスの自転車競技の選手たちが集まります。近年の各種スポーツの記録は次々と塗り替えられ、人間の持つ能力の可能性を示しています。今回の国体で繰り広げられるレースも、ハイレベルかつ、各選手にとって一生に一度の特別なものとなるに違いありません。

国体への参加の基本は、競技場に足を運び選手を応援することだと考えています。一人でも多くの方々が何らかの形で国体に参加することが「オール紫波」の実現につながりますので、町民の皆さんも競技場や佐比内サイクルパークにぜひご来場ください。

また、町内で各種スポーツが盛んに行われており、スポーツ施設も少しずつ増えてまいりました。国体の開催を機にスポーツに親しみ、みんなで元氣はつらつと暮らせる町を目指しましょう。

町は、第二次紫波町総合計画に基づき、次の5本の柱に沿って各施策を進めてまいります。

1 町民が健康で安心して暮らせるまちをつくりま

健康・長寿

- 特定健康診査受診率の向上推進(平成27年度56.2%→28年度目標59%)
- 医療・介護・予防・住まい・生活支援が相互に連携する「地域包括ケアシステム」の構築
- 「介護サービス」や「地域福祉」、「障害者福祉」、「子育て支援」などと一体となった“協働による地域の総合的な支え合い”の基盤づくりを推進
- 高齢者の社会参加と介護予防を積極的に推進
- 認知症施策の推進と生活支援体制の整備
- 健康寿命の延伸と地域で支える見守りネットワーク事業の推進



2 産業振興による地域の活性化と定住促進を目指します

農業

- 担い手の育成・確保に向けた取り組みや農地の集積・集約化、農地の大区画化などの基盤整備を進め、生産現場を強化
- 健全な食生活を営むことができる人材を育てる「食育」や地産地消を推進

森林

- 林業の振興と森林資源の循環を目指し、町産木材の活用を推進
- 森林内の搬出路網を整備
- 松くい虫被害山林の緑地化と、被害木の再利用を推進
- 町産木材を活用した省エネルギー住宅「紫波型エコハウス」の普及

観光

- 「第二次紫波町観光振興計画」が始動
- 観光資源の発掘や魅力向上を図るため、各団体との連携強化を推進

- 第三セクター「ラ・ラフランス温泉館」の業務改善と施設改修

雇用

- 土地の規制緩和を進めると同時に、関係機関と連携調整を図り、企業誘致を推進
- 地元での創業を支援

資源循環

- 「エコ3センター」で製造する堆肥の販路、販売を拡大推進
- ごみの量が増加に転じた現状を踏まえ、分別と資源回収をこれまで以上に推進
- ごみ焼却処理施設の広域化による更新(平成41年度供用開始予定)
- し尿処理施設に代わる「汚泥再生処理施設」の建設(平成29年度完成予定)



3 快適で安全なまちをつくります



道路・公園

- JR東北本線の十文字跨線人道橋の除却
- 道路・橋梁・公園遊具施設などの長寿命化を図るため、定期点検や補修を実施
- 道路改良や舗装通学路の要対策箇所の整備を実施

治水・大雨対策

- 牡丹野立体交差の排水のための非常用発電機を更新
- 牡丹野と中新田立体交差における冠水時の進入防止の注意喚起対策を実施
- 赤沼川、平沢川の改修工事を実施
- 二日町・高水寺地区の排水路を整備
- 土砂災害警戒区域などの指定を推進

都市整備

- 「北日詰朝日田線」の紫波インター線側の右折レーンを含む交差点の整備(平成29年度完成予定)
- 古館駅周辺整備に向け、基本構想・基本計画を策定し、整備手法などを検討
- 老朽木造住宅の耐震対策の普及啓発と耐震改修の支援を推進
- 「空き家等対策計画」の策定と有効活用に向けた検討

下水道・水道

- 紫波浄化センターの各設備を更新
- 各簡易水道等事業の、岩手中部水道企業団への移管準備(平成32年移管目標)

★国の事業により、北上川の築堤が進んでいます

- 廿木地区…山吹川の流路切り替え、排水樋門の整備(28年度完成予定)
- 日詰地区…用地調査・移転補償の実施



4 まちを誇りに思える子どもや心身ともに健康な人を育てます

子育て・保育

- 低所得世帯の第3子にかかる保育料の無料年齢範囲を拡大(4月から開始)
- オガール地区に民設民営の保育所を建設(平成29年4月開所予定)
- 子ども医療費助成の外来対象を小学6年生までに拡大(8月分から自己負担額も引き下げ)

学校教育

- 少子化に対応した学校教育の在り方を検討

- 子どもたちが夢を持つてのびのびと学習や生活ができる良好な教育環境の整備
- 妊娠期から義務教育まで、切れ目なく子どもの育ちや子育てを家庭を支援していくために「こども課」を新設
- 学校給食における地産地消の促進

生涯学習・国体

- 野村胡堂・あらえびす記念館の指定管理運営化
- 希望郷いわて国体自転車競技の開催

5 対話と協働を進め、安全で豊かさを実感できるまちをつくります

公民連携によるまちづくり・オガールプロジェクト

- オガール地区に「(仮称)紫波町教育サポートセンター」と民設民営の保育所を整備
- オガールタウン日詰二十一区の宅地販売の推進(現在15区画が契約済み)
- 日詰商店街地区におけるリノベーションまちづくりの推進と起業家育成

防犯・防災対策

- 紫波消防署の庁舎移転に向けた建設準備(平成31年度完成予定)
- 自主防災組織の活動と組織化を支援(行政区の46%で組織済み)

協働のまちづくり

- 市民活動や地域のつながりづくりを目的とした公益活動を引き続き応援
- よそ者の視点を生かした移住・定住施策の推進や活動団体の支援を実施するため「地域おこし協力隊」を導入

